

学校の共通目標

授業作り	重点	基礎・基本の定着と主体的・対話的で深い学びの実現。	中間評価	人と意見を共有すること。発表すること。などの活動を意識的に行っている。	最終評価
		ICT 機器・タブレット使用を意識した、授業スタンダードの確立。		タブレット端末で意見を共有、発表する活動を増やそうにしている。	

教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調1学年、2学年ともにすべての項目において、目標値、全国平均正答率を上回っている。</p> <p>調3学年は、全ての項目において目標値を上回っている。</p> <p>調作文は目標値に対して全学年ともに10ポイント以上の上回りで成果が顕著であった。</p> <p>調1年で「インタビューをもとに新聞を書く」の項目が、2年で「文法・語句」の項目が2ポイント台の上回りにとどまった。3学年は、「漢字を書く」の項目で、目標値に対し1ポイントの上回りにとどまった。</p> <p>調新入生で、作文の得点の低い生徒が多い。目標値に達していない生徒も一定数ある。（以上区学力調査より）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞や書籍・インタビューなどで得た情報を整理して発信する、情報処理能力を高める必要がある。 ・作文の得意な生徒（特に新入生）のため、書くことへの抵抗を取り除いていくことが必要である。 ・話を聞く際のメモの取り方などの指導のために、毎時間の授業のいても、教師の話をメモするなど、指示を具体的に出し、メモの取り方を身につけさせることが必要である。 ・漢字については、定期的に履修内容を確認し、覚えられなかった漢字については反復練習を促すことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器・タブレットを使い、問題演習を数多く行う。課題に対する情報収集や処理、発表活動等にも機器を役立てていく。 ・課題作文・作品への感想等、あらゆる機会に文章を書く機会を増やし、書くことへの抵抗を取り除く。 ・話し合いや教えあい、発表活動などを行い、自分の考えをもって授業に参加するという主体的な学習態度を身につけさせる。 ・漢字テストを定期的に行い、復習をすることで漢字や語彙の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して情報を収集し、発表することができている。 ・初読の感想を書かせるなど、作文を書く機会を増やしている。また、スピーチなどにも取り組み、書くことへの抵抗感を減らすことができている。 ・小集団での話し合い活動などを行い、自分の考えをもって授業に参加することができている。 ・漢字テストを定期的に行い、書けなかった漢字については直しを行うことで、語彙を増やし、漢字の定着につながっている。 	
社会	<p>調校内平均正答率が目標値に対し、第3学年では4.6ポイント下回っている。第2学年では、1.3ポイント下回っている。特に2学年では歴史的分野が、2.6ポイント下回っている。（以上区学力調査より）</p> <p>学ワークシート、調べ学習、ノート等の提出についてはよく取り組んでいる。しかし家庭学習が充分でない生徒がいて学力の定着が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学年において、社会的事象についての知識・理解を意識した基本事項の確認をしていく必要がある。 ・社会的な事象を理解するうえで、なぜそのようになったかという原因を追究する力をつける必要がある。 ・第2学年では、歴史用語など基本的な知識・理解を確認しながら授業を進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学年において、復習テストや小テストを実施し用語の反復練習を行うことで基礎学力の定着を図る。定着度の確認については、各種検査等を利用して行う。 ・それぞれの学年において、レポート作成などを課すことで社会的な事象への思考力の向上を図っていく。 ・時事問題などの調べ学習にタブレットを活用して主体的な学習に取り組む態度を育成していく。 ・小テストで8割満点を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ともに、基礎学力を定着させるために小テストの実施をくり返して重要語句の確認をしている。 ・調べ学習にも取り組み、第1学年では国調べレポート、第2学年では地域調べとして新宿区のレポート作成、第3学年では新聞レポートを行い、関心・意欲を高め、より深く学ばせる取組を行った。 ・主体的・対話的で深い学びが出来るように、各単元で、タブレットを使い、意見の交換を行った。 	
数学	<p>調第1学年は分数の計算や図形分野で目標値を下回っている生徒が多い。（以下区学力調査より）</p> <p>調第2学年はおおよそ区の平均と同等であるが、関数に関しては5ポイント低い状況である。</p> <p>調第3学年は数と式では区の平均を1ポイント上回っているが、図形では5ポイント、関数では6ポイント下回っている。</p> <p>学どの学年も授業には前向きに取り組むが、家庭学習の習慣が定着しておらず、復習に取り組まない生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年では数学に意欲的に取り組むことが苦手な生徒が多いようである。 ・特に分数の計算の処理、図形の面積の求め方など再確認していく必要がある。 ・第2・3学年では全項目で区の平均と同等もしくは下回っているため、授業展開の工夫や日々の復習に力を入れ、学力を定着させる必要がある。 ・特に関数分野では既習事項の再確認が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形では、ICT機器を利用して、形や移動など空間認知力の弱い生徒にも認識しやすい環境を作り定着を図る。 ・すべての学年で、知識や基本的な技能を定着させるために、多くの問題に繰り返し取り組ませる。 ・すべての分野で解く過程を大切に、丁寧に取り組ませる。 ・演習問題を増やし、タブレットを使用して発表させ、発信力をつける。 ・すべての項目において、区の平均と同等以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の移動では、ICT機器を利用してイメージの構築や理解に役立てることができた。 ・eライブラリーを利用して既習事項の確認に役立てている。 ・タブレット端末を利用して、問題を解く過程を共有している。発表させて、発信力をつけさせること、聞く態度や質問する力など身につくように活動している。 	
理科	<p>調第2学年は、平均正答率が目標値を1.1ポイント上回っている。</p> <p>調第3学年は、平均正答率が目標値を3.9ポイント下回っている。（以上区学力調査より）</p> <p>学授業への取り組みは良好であるが、復習等の家庭学習に対する取り組みが不十分と考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年では、植物の分類と光の性質が目標値を下回っている。 ・第3学年では、化学変化と物質の質量、動物のからだのつくりにおいて、目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、単元末に小テストを行い、理解度と定着度について把握し、フィードバックを行っていく。 ・基礎・基本の充実のため、第1学年および第3学年の物理・化学分野において、重要語句の反復練習を行い、定期考査で8割5分の正答率を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末テストを通し、理解が不十分である点について復習を行うことができています。 ・重要語句の反復練習においては、2学期中間考査で第1学年は7割5分、第3学年では8割の正答率であった。引き続き、授業での取り組みを続け、8割5分の正答率を達成できるよう声掛けを行っていく。 	
英語	<p>調第2学年は、平均正答率が目標値を9.6ポイント上回っている。</p> <p>調第3学年は、平均正答率が目標値を12.1ポイント上回っている。（以上区学力調査より）</p> <p>学授業への取り組みは良好であるが、授業や考査では簡単に意見を述べたり書いたりする活動は悩む生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年は会話活動には活発に取り組むが、正しく書くこと、語順などのルールに対しては困難を感じている生徒が多い。 ・第3学年は話すことに苦手意識のある生徒がおり、自分のことを伝えることが得意ではない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、単元ごとに小テストやテスト後のフィードバックを行い、理解を深めるよう促す。 ・各学年、会話練習を継続的に、個別の指導も重ねて学期ごとに評価していくことで苦手意識のある生徒に自信をつけさせる。 ・各単元での活動や内容を通じて理解したことをもとに自分の意見や考えを述べる活動を行い、単元ごとに評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テストや単元テストを単元ごとに行い、必要な部分を復習する機会を設けることができた。 ・帯活動に会話練習を行い、会話テストでの評価や振り返りを学期ごとに行うことができた。 ・単元ごとに意見交換をしたり、自分の経験や考えを書いたりすることができた。 	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。